

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 みんなでいきる

1. 法人の現況

1-1 令和4年度総括

令和4年度は、昨年度に引き続き、極めて厳しい経営状況となった。

新型コロナウイルスの影響による利用率の低下はもちろんのこと、物価高騰、特に電気代の大幅な値上げは法人の経営に大きなインパクトを与えた。そして何よりも大きなできごととしては、人員不足により、介護老人保健施設「サンクス米山」、特別養護老人ホーム「サンクスレルヒの森」を定員100床のところ、80床で稼働をすることとなり、このことが法人の収支に非常に大きな影響を与えることとなった。

要因としては、高齢者介護人材の確保の困難さが際立ち、それが稼働を阻むこととなった。法人としては、こうした危機的な状況を踏まえ、法人本部内に人材確保を目的とした人事課を創設し、紹介会社との幅広い交渉やポスティングの導入、ハローワークでの求人説明会、リファラル採用（職員からの人材紹介制度）、SNSを活用したPR等、多面的、戦略的な採用活動を実施した。人材確保の取り組みは、一定の成果はあったものの、職員離職も続いたことにより、人員の充足には至らない結果となった。

一方、現場からのアイデアにより、最もケアに時間が取られる入浴介助、食事介助に特化した短時間専従職の採用を試みたところ、強い手応えを得ることができた。こうした採用スタイルは国が推奨する「タスクシフティング」（介護現場における業務の明確化と役割分担を進め、介護助手が現場の担い手の一員として役割を果たす仕組み）とされる手法であり、苦しい環境下においてもこうした現場発の提案に取り組めたことは、組織成長の大きな手がかりとなった。実際、児童養護施設においても養育補助員を同様の手法で採用をするといった他部門への横展開を実施することとなった。

「福祉従事者不足」は法人全体のみならず、全国的な傾向である。しかしながら、こうした環境を言い訳にせず、第一種社会福祉法人である「みんなでいきる」は、施設利用を希望する方がおられるにもかかわらず定員を空けておくことは許さないということを強く自覚しなくてはならない。与えられた社会的使命を果たすべく、令和5年度は介護人材の確保と定着を最優先事項として取り組み、全施設の100%稼働をさせていくこととする。併せて徹底した費用の削減、効率化も強く推進し、地域に必要とされる社会福祉法人としての役割を果たすべく、更に経営改善を行ってまいりたい。

2. 令和4年度事業方針の取組について

2-1 「部門別予算」の達成

(単位：千円)

拠点名	事業収入		達成率	事業損益		達成率
	当初予算	決算額		当初予算	決算額	
サンクス米山	498,235	425,818	85.5%	-48,702	-118,300	—
サンクス柿崎	200,662	159,427	79.5%	-23,048	-61,820	—
サンクスレヒの森	402,983	395,796	98.2%	-37,854	-53,743	—
りとるらいふ	332,464	319,456	96.1%	18,026	4,581	25.4%
若竹寮	210,182	218,607	104.0%	11,834	23,253	196.5%
つちはし保育園	217,226	220,849	101.7%	20,454	17,430	85.2%
相談センター	85,765	85,578	99.8%	10,521	10,613	100.9%

2-2 人財の定着率向上に向けての施策

人事部門を新設し、「人をつくり、組織をつくる」体制の構築

2022年度において最大の課題は職員の充足ということを踏まえ、法人本部内に人事課を設置（職員2名体制）

人材の採用・定着が法人経営の根幹と認識し、次年度以降も更なる磨きをかける

① 人材育成システムの再構築と運用開始

→ 人材育成室を再構築し、人材教育の見直しを図ったがコロナ禍によりフォローアップ研修の実施までは至らなかった。2023年度より研修再開。

② 方針・目標管理の体制構築と遂行

→ (株)日本経営とコンサルティング契約を締結し人事制度見直し着手。
人事考課制度と連動した管理面談を構築中。2023年度継続事項。

③ 採用システムの再構築

→ 人事課の最重要課題として採用活動にともない、以下の施策を実施

- ・リファラル採用（職員紹介）の拡充・紹介料の増額
- ・入職祝い金制度
- ・短時間パートの採用、タスクシフティングの実施
- ・ポスティング広告の継続採用
- ・上越タイムス記事の連続掲載に伴う施設のブランディング化
- ・ハローワークでの職場説明会の開催
- ・インスタ等のSNS情報発信

2-3 社会福祉法人としての公益性に根差した事業活動の継続

(1) 各部門の収入と費用構造を検証・検討し経営資源の有効活用を図る

社会福祉法人といえども利益を出し続けることを改めて認識し、(株)日本経営とコンサルティング契約を締結。

売上労働時間管理を導入し「サンクスレルヒの森」及び「りとるらいふ」において先行的に開始した。2023年度は全部門へ展開をする。

売上労働時間管理：日々現場において、利用者数から導き出される売上額の入力及び配属職員（ユニット職員等）の勤務時間を入力することによる日次決算

◇ 効果

- ・ **レルヒの森**：日々のユニットにおける職員のばらつきを時間で把握できるようになり、ユニット間の応援などがユニットリーダー間で共有できるようになった。ユニット運営に伴う最低必要配置時間が明確となり、パート採用等に活かしている。
- ・ **りとるらいふ**：月間目標をリーダーが記載することにより、行動の明確化共有化が図れた。また、売り上げを1日毎に確認でき利用単価が低いことに対する意識などにより、現場レベルで対策が動き出してきている。

(2) 計画通りの保育園事業の運営

2022年4月1日より上越市公立保育園から民営化により運営がスタート。

園児数		職員数	
年齢		園長	1人
0歳児	10人	副園長	1人
1歳児	33人	保育職員	44人
2歳児	31人	看護師	1人
3歳児	37人	栄養士	1人
4歳児	41人	調理員	5人
5歳児	35人	その他	2人
計	187人		55人

引継ぎ初年度は事故なく1年間過ごすことを最重点課題とし、結果大きな問題・トラブル無く運営ができた。また、保育計画等作成した経験がない、主たる保育に関わった経験が乏しい職員も多く在籍していたが園長、副園長の指導の下安定した保育を提供した。

給食室において職員の退職に伴う入れ替わりがあったが、その他の職員については退職者もせず安定した職員体制で運営ができた。

(3) 「若竹みらい創造基金」の普及促進

上越市の協力により、広報じょうえつ・広報Jステーションにて周知を実施した。また、寄付金を受領する際にメディアより取材に入ってもらうことによる周知も実施した。

■ 寄付受領額	29名(51件)	3,291,974円(団体含む)
■ 基金給付額	8名	2,151,779円
	(一時給付金)	1,153,379円)
	(家賃給付金)	998,400円)

2-4 新たな挑戦

(1) スピード感ある情報発信と共有化を図ることを目的としコミュニケーションツールの導入を実施。

◇ 職員へ連絡するツールとしてLINEWORKSを導入した。職員間の連絡及び施設内においての情報一斉配信など情報共有のタイムラグを無くすこと及び探す・電話するなどの業務を効率化できた。

◇ 利用者への一斉配信ツールとして、絆ネット、さくら連絡網、コドモンを施設毎に導入した。

コロナが発生した際に、今までは一軒一軒電話でおこなっていた作業が効率化できたことやアンケートを実施できるなど今後利用者(家族)と施設を繋ぐツールとして更なる利用を進めていく。

2-5 高齢福祉事業及び障害・児童福祉事業の更なる融合

【事業部間職員異動実績】

→ 平成28年度異動者	4人
平成29年度異動者	19人
平成30年度異動者	13人
令和1年度異動者	2人
令和2年度異動者	9人
令和3年度異動者	3人
令和4年度異動者	5人

異 動 前	異 動 後	人数	摘 要
若竹寮	りとるらいふ	1人	
本部	りとるらいふ	1人	
りとるらいふ	つちはし保育園	1人	定期人事異動
りとるらいふ	サンクス柿崎	1人	〃
若竹寮	りとるらいふ	1人	〃

2-6 「働きがいのある職場への実現」への取り組みを実施

(1) ハラスメント委員会の設置

施設現場において発生している事案（ハラスメント、不適切なケア）などを速やかに拾い上げる仕組みとして各拠点毎にハラスメント委員を選出し、ハラスメント委員会を立上げた。

◇ ハラスメント委員構成：

拠点毎に各1名を選出。（8名体制）

◇ 委員会活動：ハラスメントに対しての勉強会開催

委員による情報共有の実施（年間3回）

ハラスメント申出の一次窓口

2-7 優秀な人材確保及び離職防止に向けた採用研修への取り組み。

① 令和5年度入職新卒職員採用者数

最 終 学 歴	採用数	配 属 部 署	
大 学 卒	5人	高齢福祉事業	5人
短大専門卒	4人	障害福祉事業	3人
高 卒	4人	児童福祉事業	5人
計	13人		

※ 上記採用者数の内訳(重複あり)

①県外大・短大卒数（1人） ②上越市外出身者数（3人）

③福祉系大卒（4人） ④福祉系短大専門卒（2人）

⑤障害雇用（1人）

② 新卒入職職員へのフォローアップ研修の実施

目的：1年目の目標の明確化及びフォロー実施することによる離職防止

日程：2回開催（5,2月）

コロナ感染症拡大により、当初の計画通り開催ができなかった。

3. 法人の概要

3-1 事業所の概要

事業部	事業所名	サービス名	定員	管理者	開設年月
高齢福祉 事業部 「サンクス」	介護老人保健施設 サンクス米山	①介護老人保健施設 ②通所リハビリテーション ③訪問リハビリテーション	100名 30名	小谷 貢	H15.9
	サンクス柿崎	①短期入所生活介護 ②通所介護	40名 20名	白砂 弘継	H25.4
	特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森	①介護老人福祉施設	100名	塚田 光知子	H27.6
障害福祉 事業 「りとるらいふ」	りとるの家	①生活介護「きら」	20名	久保 久美子	H22.4
	りとるの家はなれ	①放課後等デイサービス「ららん」	10名	久保 久美子	H24.5
		②短期入所「ぷあん」	8名	片田 竜一	
	とも	①生活介護「とも」	20名	久保 久美子	H30.4
	にこ	①放課後等デイサービス「にこ」	10名	久保 久美子	H27.6
	ぱれっと	①放課後等デイサービス「もーと」	10名	久保 久美子	H31.4
		②グループホーム「ふぁみりあ」	12名	片田 竜一	H31.4
③生活サポートホーム「ぱれっと」		6室	片田 竜一	H31.4	
しゃぼん玉クラブ	①高田西小学校放課後児童クラブ	75名	片桐 公彦		
児童福祉 事業	児童養護施設 若竹寮	①児童養護施設	56名	片桐 友紀	H29.4
	つちはし保育園	①保育所	200名	山本 宏昭	R4.4
地域生活 支援事業	みんなでいきる 相談センター	①地域包括支援センター ②居宅介護支援 ③特定計画相談支援 ④障害児相談支援 ⑤上越市生活困窮者支援事業 ⑥上越市子どもほっとライン事業		江部 健幸	H30.4

3-2 施設職員数の推移 ㊦正職員 ㊧契約職員・パート・アルバイト

拠点名	年 度	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	増 減
サンクス米山	正	65人	68人	64人	△4人
	他	29人	30人	30人	+0人
	計	94人	98人	94人	△4人
サンクス柿崎	正	25人	29人	26人	△3人
	他	15人	13人	15人	+2人
	計	40人	42人	41人	△1人
サンクスレルヒの森	正	49人	51人	48人	△3人
	他	35人	37人	46人	+9人
	計	84人	88人	94人	+6人
りとるらいふ	正	44人	45人	46人	+1人
	他	26人	28人	28人	+0人
	計	70人	73人	74人	+1人
若竹寮	正	32人	29人	33人	+4人
	他	5人	7人	5人	△2人
	計	37人	36人	38人	+2人
つちはし保育園	正	0人	9人	45人	+36人
	他	0人	0人	8人	+8人
	計	0人	9人	53人	+44人
相談センター	正	14人	14人	15人	+1人
	他	0人	0人	0人	+0人
	計	14人	14人	15人	+1人
法人本部	正	8人	7人	7人	+0人
	他	1人	1人	1人	+0人
	計	9人	8人	8人	+0人
総 計		348人	368人	417人	+49人

3-3 財産債務及び損益の状況の推移

(1) 財産債務の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和2年度 R3. 3. 31現在	令和3年度 R4. 3. 31現在	令和4年度 R5. 3. 31現在	増 減
流動資産	503,427	499,039	506,860	7,821
固定資産	2,726,765	2,640,233	2,521,533	△118,700
基本財産	2,414,965	2,412,217	2,320,441	△91,776
その他の固定資産	311,799	288,016	202,093	△85,923
資産の部 計	3,230,192	3,139,272	3,028,393	△110,879
流動負債	340,156	375,580	359,390	△16,190
固定負債	1,974,799	1,939,785	2,198,198	258,413
負債の部 計	2,314,955	2,315,365	2,557,588	242,223
純資産の部 計	915,235	823,906	470,805	△353,101

(2) 損益の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増 減
サービス活動収益	1,884,823	1,876,124	1,848,684	△27,440
人件費	1,211,647	1,273,643	1,404,682	131,039
事業費	252,645	253,367	287,350	33,983
事務費	281,979	291,391	282,204	△9,187
減価償却費	117,322	122,163	124,486	2,323
その他	8,998	7,886	7,503	△383
サービス活動費用	1,872,591	1,948,450	2,106,225	157,775
サービス活動増減差額	12,232	-72,326	-257,541	△185,215
サービス活動外収益	7,627	9,110	14,911	5,801
サービス活動外費用	17,293	17,896	21,519	3,623
経常活動増減差額	2,566	-81,112	-264,149	△183,037

【特記事項：2022年度特殊要因】

① サンクス米山施設長不在による人員欠如減算額	11,515 千円	} 57,995 千円
② コロナ感染症による閉所収入減額	27,072 千円	
③ 水道光熱費増額	19,408 千円(前期比 124.4%)	

3-4 会議の開催状況

(1) 理事会（定数7人）

回数	開催年月日	出席理事数
第1回	2022年5月31日	6名
第2回	2022年7月14日	5名
第3回	2022年12月2日	6名
第4回	2022年3月31日	6名

(2) 評議員会（定数8人）

回数	開催年月日	出席評議員数
第1回	2022年6月14日	5名

3-5 監査の状況

(1) 法人監事による監査

- ① 実施日時：令和4年5月12日
- ② 場 所：法人本部
- ③ 監査項目：会議開催状況、決算、資産・負債残高照合
- ④ 監査所見：特になし